

会報



公益財団法人 松前国際友好財団

2016.4.1



本財団事務所庭園に集う研究奨励金受給者（2015年9月6日）

奨学者からのたより

- ① 現在の職業・地位等
- ② 本財団が日本へ招聘した年度
- ③ 受入研究機関と指導教官（ただし、招聘した当時のデータ）

編集・翻訳責任：松前国際友好財団



ホセ・ホアキン・ロデス・ロカ博士
(スペイン)

Dr. Jose Joaquin RODES ROCA
(Spain)

- ①アリカンテ大学 物理学システム工学信号理論学科 准教授
- ②2014年度招聘
- ③(独)理化学研究所 宇宙観測実験連携研究グループMAXIチーム 博士 三原建弘

2015年7月30日

皆様お元気ですか。松前財団の研究奨励金を受けることができたのは、私の生涯で最も良い経験でした。ど

うもありがとうございます。

2015年6月発行のニュースレター32号の中に掲載されている私の写真を見て、とても幸せに感じました。日本で過ごした3カ月間に、素晴らしい松前財団の奨学者たちと知り合いになれたことは大きな名誉でした。

松前財団の研究奨励金制度がドアをあけてくださったおかげで、特に三原博士と理化学研究所のMAXIチームのすべての同僚たちの協力を得て、受け入れていただいたことに感謝しています。そして松前財団のミーティングに参加して、私は地球と世界中の人々を見る目が変わりました。

私がこの手紙を書いているのは、松前財団の研究奨励金による成果として、理化学研究所と私の大学と

の共同研究による論文が掲載された国際的学術雑誌「Astronomy and Astrophysics (A&A) (天文学・天体物理学)」が出版されたことをお伝えするためです。

また一方では、アリカンテ大学が新しいプロジェクトを共同で行うために、三原博士を10日間ご招待することが決まったという喜びをお伝えしたいと思います。そしておそらく、私は2016年に日本に戻るかもしれません。

松前財団の庭に咲く美しい桜の写真をお送りいただきありがとうございます。冬休みに東京の理研へ行ければ、その時またお会いできれば嬉しく思います。



ディネッシュ・マーラ博士
(ネパール)

Dr. Dinesh B. MALLA (Nepal)

- ①水資源省灌漑局 技師
- ②1991年度招聘
- ③九州東海大学 工学部 教授 星田 義治

2015年8月7日

ネパールからのご挨拶

私が星田教授の指導により熊本の九州東海大学で地下水エンジニアリングの共同研究を手がけるという名誉を受けてから、およそ23年が経ちました。松前国際友好財団のサポートなしではなしえることはできなかったでしょう。行った研究は、ネパールと他の国々でも研究開発において、地下水の理解と知識を深めることに大いに役立ちました。このことに関して、松前財団のサポートにとっても感謝しています。

現在、私は南アフリカにある山々に囲まれるレソト王国で、地下水を使用している地域の給水と公衆衛生の建設プロジェクトマネージャーとして働いています。私が仕事を遂行することにおいて、今日までの研究が大変役立っています。

最近の活動が掲載されたニュースレターをお送りいただきとても感謝しています。定期的な受け取ることを、大変嬉しく思っています。

カトマンズを訪問することがありましたら、いつでも私の家で歓迎いたします。



ジラルリ・ベヌア博士
(アルジェリア)

Dr. Djillali BENOUAR (Algeria)

- ①ハウアリ・プーメディエン科学技術大学 土木工学部 教授
- ②1989年度来日
- ③東北大学 工学部 教授 柳沢栄司

2015年8月26日

私の便りを読んでいただけることは大きな喜びです。私のキャリアについて、また、1989年に日本を訪問したとき私がどれだけ松前国際友好財団から大きな影響を受けたのか、皆様にもっと早く、お伝えすることができなかったことをお詫びいたします。

この手紙で、日本を訪問し研究方法について学ぶ機会を与えてくださった松前財団に、心からのお礼と多大なる感謝を申し上げます。1989年に日本を訪問したとき、私はまだ修士 (M.Sc.) を持っているだけで、東北大学の柳沢教授のもと5カ月間、研究活動を始めらうでの基礎を学びました。それは私にとって大変プラスとなりました。アルジェリアは地震災害国でしたので、私は日本の東北地方 (宮城県) で液化化現象の調査に取り組みました。それは私にとって科学的な研究の出発点であったと思います。それ以来、地震工学と地震学研究の分野で現在まで研究を継続しています。

私は2015年6月に、アルジェリア科学技術アカデミー (ASTA) の設立メンバーとして科学での国際審査員に選ばれました。次のウェブサイトで見ることができます (www.asta.dz)。ASTAは2015年3月に設立されたばかりです。

次に日本を訪問する機会があれば、私は必ず松前財団の事務所を訪問いたします。

私の最新の情報と経歴も併せてお送りします。

あらためて、お礼を申し上げます。



ゲタチュ・ハイル博士
(エチオピア)

Dr. Getachew HAILU (Ethiopia)

- ②1994年度招聘
- ③東海大学 工学部電気工学科 教授 増田良介

2015年9月3日

皆様お元気ですか? 松前国際友好財団の活動と奨学者の皆様は順調ですか? 長い間、松前財団にお便りを書かなかったのですが、私自身は毎年届くニュースレターを読んで松前財団の最新情報を拝見していました。

いくつかの生活経験が他の多くの方とは違うものとなり、予想外のことがいろいろと起こりました。私は1994年度の奨学者で、それから20年以上が経ちましたが、私の記憶は今でも鮮明で、ほんの1年前に起こったことのように思えます。私のいう経験とは、(1)成田空港到着時に若い女性ミーティングスタッフに出迎えられたこと (2)松前財団事務所での来日ガイダンス時の歓迎と、奨学者同士のミーティングがあったこと (3)国内研修旅行が私たちに日本の歴史、文化、そして神聖な場所を訪問する機会を与えてくれたこと (4)宿泊先のゲストハウス管理者と秦野市職員の丁寧な対応 (5)受入

指導教官の増田教授からの友好的な歓迎とプロフェッショナルなサポート (6)受入教授の特別のはからいで他研究機関への訪問を可能にしてくれたこと (7)松前財団のスタッフ、増田教授や日本の友人 (佐藤さん) たちによる温かい歓迎と寛大な歓待。

日本での滞在を終え、私がドイツのキールに滞在した時に、増田教授と佐藤さんがそれぞれ別々に訪問してくれました。私は彼らとともに楽しい時間を持つことができました。自転車でキールの沿岸線と田舎町等を見て回り、フェリーでランゲラン島まで行ったり、歴史上の都市リュベックを訪問しました。その後、私は2002年から2012年まで米国カリフォルニアのサンタクララにいました。ここでも2回、佐藤さんと会う機会を持ちました。しかしこれは約束していた個人の訪問ではなく、会議のためにカリフォルニアを訪れたのです。私たちは会議の前に数時間、会うことができました。2013年には増田教授もロボティクス会議のためにカリフォルニアを訪れたのですが、すでに私はその町を出ていたので、残念ながら会うことはできませんでした。

私の誕生日にお祝いのメールをいただきました。私のことを覚えていてくださりありがとうございます。同じく、定期的に松前財団のニュースレターを受け取っていて、最近の活動を知ることができることはとても嬉しく感謝しています。最後に、私は松前財団の目的が満たされますよう、財団の皆様のご健康とご多幸、ご成功をお祈りいたします。今までのように、これからも松前財団の活動が国家間の平和と友情が促進される中心であり続けるでしょう！



クリスチャン・ザフェュー博士
(オーストリア)

Dr. Christian ZAFIU (Austria)

- ①ユーリッヒ研究センター (ドイツ) 研究員
- ②2014年度来日
- ③東京工業大学 大学院総合理工学研究科物質電子化学専攻 教授 原 正彦

2015年9月20日

親愛なる松前財団の皆様へ

先週、グリセルダ・ヴァルデス・マガニャ (メキシコ国2014年度招聘 Dr. Griselda VALDEZ MAGANA) さんがヨーロッパを、ベルギー、オランダとドイツを訪問しました。松前財団で共に研究滞在していた友人たちと私はずっと連絡をとっているの、彼女から私に電子メールが届いて、現在ドイツのドルトムント滞在中のレミィ・ベルトラン・テボンノ (カメルーン国2014年招聘 Dr. Remy Bertrand TEPONNO) さんを一緒に訪問することに決めました (写真 P5「グラフ」参照)。私たちは昼食をとりながら、日本にいた時のこと、我々の生活が松前財団の招聘終了後も世界中で続いている

ことなどたくさん語り合いました。これらのディスカッションの間に、我々は繰り返し何度も同じ結論に到達しました。日本で生活したことは私たちの人生の重要な経験となり、大変楽しむことができ、松前財団は大変素晴らしい待遇を私たちにしてくれました。

私がすべての松前財団の奨学者代表として正直に言うことができるのは、我々は本当に松前財団の人たちが好きです。あなた方は素晴らしい仕事をしています。私たちは日本に戻って、再び松前財団の事務所を訪問したいと願っています。



マリリン・チュラスイリ博士
(タイ)

Dr. Malyn CHULASIRI
Ungsurungsie (Thailand)

- ①マヒドン大学 薬学部 教授
- ②1990年度招聘
- ③東京大学 医科学研究所 教授 松島泰次郎

2015年12月14日

お元気ですか? 皆様を懐かしく思っています。

今年は、私にとって大変よい年になりました。二つの国際会議を成功させることができたのです。一つは「Bioresources towards World Class Products」で、二つめは最近終わったばかりの「SFRR-アジア2015」です。

さらに、私は二つの秀逸な賞を受賞しました。一つは、タイ産業薬剤師協会から産業薬剤師の功績をたたえる賞で、二つめはタイ製薬協会から薬剤師の功績をたたえる賞です。それはまるで私が海外から多くの賞を受賞した2011年の再来のようでした。その時はイギリスの国際伝記センターから製薬科学分野で「2011年世界の主要科学者」と、アメリカ伝記センターから「薬学での優れた業績のための名誉殿堂」、米国の化粧品&化粧品洗面用品業界からの「研究開発アプリケーション賞」を、ただしこの賞はイタリアで受賞しました。

実際は、私のすべての業績は、日本で松前国際友好財団の奨学者としての経験からであると告白しなければなりません。なぜか? 働くこととリラックスすることにおいて、ライフワークバランス (生活の均衡) を保つために一生懸命働き、また遊ぶことを私は知っています。私が東京大学での研究から得た知識は、どのように成功へ導く研究を行うべきかが養われ、そして東京大学の教授と同僚と同様、松前財団のスタッフの皆様のご有意義なサポートによって実現した、素晴らしい二つの旅行がリラックスできる時間を私に与えてくれました。松前財団の奨学者たちやスタッフの皆様と楽しい食事を過ごした後は、人生初のカラオケで歌うことも体験し、ストレス解消法を教えてくださいました。

実際に、私は古き良き思い出を再現するチャンスがあることを望んでいます。もし松前財団が奨学者の同窓生

を集めてリユニオンの活動をするなら、私は必ず参加しますのでお知らせください。重ねて皆様に感謝を申し上げます。



ア룬・クマール博士 (インド)
Dr. Arun Kumar (India)

- ①カールトン大学 (カナダ) 地球科学 非常勤研究教授
- ②1989年度来日
- ③長崎大学 教養部 教授 高橋 清

2015年12月27日

松前国際友好財団のスタッフの皆様と世界中の奨学者の皆様へ、私より心からの2016年新年のご挨拶とお祝いを申し上げます。

私はインドから1989年に松前国際友好財団の招聘で長崎大学の高橋教授のもとで研究滞在いたしました。それから長い時間が過ぎましたが、日本での私の記憶はとても鮮明です。松前財団の奨学者やスタッフと過ごした国内研修旅行の思い出と経験は、永久に私の心の中に鮮やかに存在することでしょう。毎年届くニュースレターや出版物で奨学者たちの写真を見ていると、私が日本で過ごした日々を思い出させてくれます。

日本から戻った後、私はインドのオイル・天然ガス会社で地質学者として働きました。1996年にはカナダのオタワにあるカールトン大学で研究員の職につきました。その後は中東や北アフリカのさまざまな石油会社で検証地質学者として働き、大学等でも同じく教授職と研究を続けました。そして地球環境科学の分野において、多くの研究論文も発表してまいりました。最近私は同僚と共に、世界各地で発生する事例をとった専門家による論文を含む、古津波に関する文献の編集をしました。津波が世界中、特に日本にとって主要な脅威となることから、私は将来、松前国際友好財団の記念シンポジウムでこの研究について発表したいです。



ヴィルヒリオ・ジュリアス・マンザノ・ジュニア博士
(フィリピン)

Dr. Virgilio Julius MANZANO JR.
(Philippines)

- ①マリアノ・マルコス州立大学 工学部 学部長
- ②2009年度招聘
- ③東京大学 大学院情報学環・学際情報学府 土壌・農業情報学 教授 溝口 勝

2016年1月21日

継続的にニュースレター、グリーティングカード等をお送りいただき、深く感謝をいたします。最近、私は奨学者カードと共にグリーティングカードを受け取りました。

私が2009年に松前財団の研究滞在を修了してからのことを報告したいと思います。

東京大学での6カ月間の研究滞在は、さらなる国際的な活動の舞台へと私を導いてくれました。私の研究である「コメ生産強化の日本システムでのIT分野モニタリング (J-SRI)」は国際ジャーナルで発表されました。引き続き、私自身が新しい知識と技術を得るために、自国開催も含めて多くの国際トレーニング、インテグレイテド水資源管理 (IWRM) などの著名な国際会議とシンポジウムにも参加しました。

最近、私はニューヨークのコロンビア大学でフルブライト奨学金を得て、6カ月間 (2014年9月~2015年3月) 特別研究員として滞在しました。フルブライト研究員として、私は「気候と気象情報を利用したフィリピンの農業におけるリスクマネージメント」を研究しました。私が作成した2つの研究論文のうち1つが出版されて、もう1つも準備中です。さらに、私はアメリカのメリーランドにあるNASAゴダード宇宙飛行センター (NASA-GFSC) で2015年11月の1カ月間、客員研究科学者として勤めました。

現在のところ、私は日本の2011年~2016年度の間でグリーン・ネットワーク・オブ・エクセレンス (GRENE) の研究枠組みの下にある、「アジアモンスーン地域の気候変動と農業に対するそれらの効果の評価 (CAAM)」という題のプロジェクトに関係しています。これは日本の文部科学省によってサポートされています。

さらに、私は大学において農業工学科長、工学部長、イロコスノルテ科学コミュニティのディレクターなどのさまざまな管理責任者としての肩書きを与えられました。他には、指導者として受賞したフィリピン自然研究協会の会長、ガンマシグマデルタ農業名誉団体と農業工学フィリピン協会のメンバーとなり、フィリピン農業技術協会ルソン島支部副会長なども勤めました。

本当に松前財団の研究奨励金を受給できたことで、私に新しいレベルの機会を与え、目的と冒険、多くの享受と学識を開いてくれました。

2016年3月6日~8日に、私は福島県郡山市の福島農業研究センターで開催される「第5回アジアモンスーン地域・国際ワークショップ及び気候変動と農業への影響に関する国際会議」に参加しているでしょう。そして私は、2016年3月9日に松前財団の事務所を訪問することを計画しています。松前財団のとても親切で魅力的なスタッフに会えることを楽しみにしています。

東京ミーティング

(2015年9月7日 東海大学校友会館にて)



講演される家森幸男先生

本財団の研究奨励金制度で招聘した外国人研究者の方々に、本財団の設立目的と事業活動についてより深く理解していただくため東京ミーティングを毎年実施しております。15カ国から招いた17名の研究者は本財団創設者である松前重義先生について学び、また相互の理解を目的とした研究者自身によるプレゼンテーションをしていただきました。その後、特別講演会として講師に家森幸男先生（武庫川女子大学国際健康開発研究所所長、京都大学名誉教授）を迎え、英語による講演「Why are Japanese World's Top Longevity? -30-year Lessons from WHO Study（邦訳：日本人は何故世界の長寿のトップなのか？—30年かけたWHO研究から学ぶ）」を聴講いたしました。

特別講演会終了後の奨学者懇親会では、13カ国の在日外国大使館の大使閣下や書記官、受け入れ指導教官、その他多くの方々から、外国人研究者の方々へ激励のお言葉をいただきました。



◀広島平和記念公園を訪問したウズベキスタン国奨学者オタバキ・ブルクホノフ氏



▲修了奨学者たちの出会い(ドイツ、ドルトムント市にて、左より：カメルーン国テボンノ氏、メキシコ国ヴァルデス・マガニャ氏、オーストリア国ザフュー氏)



修了奨学者が本財団を訪問

左より：2008年度ラトビア国イリヤ・ガルキン氏、1983年度ナイジェリア国オIEWリ・トモリ氏、1990年度タイ国マリン・チュラスイリ氏



2015年度 研究奨励金受給者紹介

1：本国での勤務先 2：日本での受入研究機関・指導教官 3：研究テーマ (敬称略)



ワー・ワー・アン (ミャンマー)

Dr. WAH WAH AUNG (Myanmar)

- 1：ミャンマー保健省 医学研究部門高度分子研究センター 所長 (研究部門)
- 2：北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター バイオリソース部門 教授 鈴木定彦
- 3：ミャンマーで分離された超多剤耐性結核菌の分子生物学的解析



ミレラ・コピヤル (クロアチア)

Dr. Mirela KOPJAR (Croatia)

- 1：オシエク大学 Josip Juraj Strossmayer オシエク食品工学部 准教授
- 2：東京工業大学 バイオ研究基盤支援総合センター 櫻井研究室 教授 櫻井 実
- 3：コンピュータシミュレーションによる水溶液中におけるトレハロースとアロマ化合物/フェノール化合物間相互作用に関する研究



ファム・ダク・トリ (ベトナム)

Dr. PHAM Duc Tri (Viet Nam)

- 1：ベトナム科学技術アカデミー熱帯生物学研究所 分子生物学科 研究員
- 2：筑波大学 生命環境科学研究科生物圏資源科学専攻 教授 江面 浩
- 3：トマトのSLETR1 遺伝子の機能に対する点変異の影響



サシャ・ゼイコヴィッチ (ボスニア・ヘルツェゴビナ)

Dr. Sasa ZELJKOVIC (Bosnia and Herzegovina)

- 1：バニャ・ルカ大学 数理学部化学科 助教授
- 2：東京大学 大学院理学系研究科化学専攻 教授 長谷川哲也
- 3：高効率有機薄膜太陽電池に向けた新規ペロブスカイト化合物の合成



マリーナ・ガフティシュヴィリ (ジョージア)

Dr. Marina GAKHUTISHVILI (Georgia)

- 1：トビリシ州立Ivane Javakishvili大学 精密自然科学部化学科 助教授
- 2：豊田工業大学 大学院極限材料専攻物質工学分野極限高分子材料研究室 教授 田代孝二
- 3：高分子マトリックス中の抗菌性ヒ素クラスター：構造物性相関の微視的解明



オム・ナット・カテル (ブータン)

Dr. Om Nath KATEL (Bhutan)

- 1：ブータン王立大学 天然資源学部森林学科 講師
- 2：名古屋大学 大学院生命農学研究科生物圏資源学専攻 地域資源管理学講座森林資源利用学研究室 教授 原田一宏
- 3：森林の保全と気候変動：ブータンにおけるコミュニティ林業を通じた地域の適応の実践と緩和 (REDD+)

1：本国での勤務先 2：日本での受入研究機関・指導教官 3：研究テーマ



ディミタル・ゲオルギエフ・ヴァルチェフ（ブルガリア）
Dr. Dimitar Georgiev VALCHEV (Bulgaria)

- 1：食品科学技術大学 コンピュータシステム工学科 助教授
- 2：名古屋大学 大学院工学研究科電子情報システム専攻 教授 川瀬晃道
- 3：食品産業におけるテラヘルツ技術に基づく検査手法の研究



カルロス・ルイス・サリナス・ラレカ（ベネズエラ）
Dr. Carlos Luis SALINAS LARECA (Venezuela)

- 1：カラカス工学研究所 電子システム工学センター 研究開発プロフェッショナル
- 2：九州工業大学 宇宙環境技術ラボラトリー（LaSEINE）施設長、教授 趙 孟佑
- 3：超小型衛星の電力制御システムに関する研究



ノディラリ・ノーマハマトフ（ウズベキスタン）
Dr. Nodirali NORMAKHAMATOV (Uzbekistan)

- 1：ウズベキスタン科学アカデミー 生物有機化学研究所 上席科学研究员
- 2：熊本大学 工学部物質生命化学科精密有機高分子研究室 教授 伊原博隆
- 3：動物性ウイルスの融合糖タンパクを標的とする生理活性多糖の開発



アランニャ・ジラヴィリヤクン（タイ）
Dr. Arunya JIRAVIRIYAKUL (Thailand)

- 1：ナレースワン大学 医療科学部臨床技術学科 講師
- 2：熊本大学エイズ学研究センター 岡田プロジェクト研究室 教授 岡田誠治
- 3：胆管細胞がんの新規免疫療法の確立



ハスィナ・グル（パキスタン）
Dr. Hasina GUL (Pakistan)

- 1：農業大学 ペシャワール・カイバル・パクトウンクワ州農業研究支所 副所長
- 2：千葉大学 大学院園芸学研究科生物資源科学コース栽培・育種学領域育種学分野植物細胞工学研究室 教授 中村郁郎
- 3：野生種に特異的分子マーカーを用いたコムギの育成系統の選抜



モーリス・ドゥクレ・アウアファク（カメルーン）
Dr. Maurice Ducret AWOUAFACK (Cameroon)

- 1：チャン大学 理学部化学科 上席講師
- 2：富山大学和漢医薬学総合研究所 資源開発部門天然物化学分野 教授 森田洋行
- 3：創薬を指向したカメルーン産薬用植物からの抗菌抗HIV活性成分の探索



オルフミラヨ・ボンジュボラ・オイエロ（ナイジェリア）
Dr. Olufunmilayo Gbonjubola OYERO (Nigeria)

- 1：イバダン大学 医学部 高度医学研究トレーニング研究所 研究員
- 2：鹿児島大学 大学院医歯学総合研究科附属難治ウイルス病態制御研究センター抗ウイルス化学療法研究分野 教授 馬場昌範
- 3：ナイジェリア伝統医薬の抗ヒト免疫不全ウイルス（HIV）効果に関する研究

1：本国での勤務先 2：日本での受入研究機関・指導教官 3：研究テーマ



ギブリル・エラミン・マッディ・エラミン (スーダン)

Dr. Gibril Elamin MAGDI ELAMIN (Sudan)

- 1：ゲジラ大学 織物学部繊維・紙リサイクルセンター 所長
- 2：山形大学 大学院理工学研究科 ソフト&ウェットマター工学研究室 教授 古川英光
- 3：3Dゲルプリンターを活用した培養足場の自由造形



ヴェンカタ・スバイア・イドゥパリ (インド)

Dr. Venkata Subbaiah EDUPALLI (India)

- 1：国立細胞科学センター 研究員
- 2：九州大学 大学院医学研究院基礎医学部門生体制御学講座系統解剖学 講師 佐藤有紀
- 3：鳥類におけるCRISPR/Casシステムを用いたゲノム編集



サイモン・ロバート・ホール (イギリス)

Dr. Simon Robert HALL (United Kingdom)

- 1：ブリストル大学 理学部化学科 上席講師
- 2：慶應義塾大学 理工学部物理情報工学科超伝導・物質探索研究室 准教授 神原陽一
- 3：バイオテンプレートを用いた鉄系超伝導体のナノ細線化と高機能化



ダヴラン・オタジャノフ (ウズベキスタン)

Dr. Davran OTAJANOV (Uzbekistan)

- 1：トリノ工科大学タシケント校 地震工学研究センター 所長
- 2：大阪大学 大学院理学研究科宇宙地球科学専攻理論物質学グループ 教授 川村 光
- 3：地震ダイナミクスの統計物理的研究



タンヤラー・ジッピーラ (タイ)

Dr. Thanyarat JITPEERA (Thailand)

- 1：ラジャマンガラ工科大学ランナー校 科学農業技術学部 講師
- 2：新潟大学 大学院自然科学研究科数理物質科学専攻数理学 教授 田中 環
- 3：不動点問題などを含む階層的問題に対する数学的性質とその応用の研究



アレクサンダー・ツヴェッコヴィッチ (セルビア)

Dr. Aleksandar CVETKOVIC (Serbia)

- 1：ベオグラード大学 機械工学科 教授
- 2：和歌山大学 システム工学部情報通信システム学科 教授 和田俊和
- 3：実時間三次元形状計測



タティアナ・アレクサンドロブナ・バルスコヴァ (ロシア)

Dr. Tatiana Alexandrovna BARSUKOVA (Russia)

- 1：ロシア科学アカデミー・カザン科学センター A.E. Arbuzov有機物理化学研究所 物質化学分析研究室 科学的研究員
- 2：東北大学 大学院環境科学研究科環境創成計画学 教授 壹岐伸彦
- 3：金属イオン結合能を有する1,3-ジケトン修飾カリックス[4]アレーンの分子設計

1：本国での勤務先 2：日本での受入研究機関・指導教官 3：研究テーマ



セルロ・アルフレッド・リクク (ボツワナ)

Dr. Sello Alfred LIKUKU (Botswana)

- 1：ボツワナ農業大学 基礎科学科 准教授
- 2：筑波大学 アイソトープ環境動態研究センター 准教授 坂口 綾
- 3：環境中の天然および人口放射性核種に関する研究



イブラヒム・サレー・アフメッド・アブダラー (エジプト)

Dr. Ibrahim Saleh Ahmed ABDALLAH (Egypt)

- 1：カイロ大学 農学部農学部経済昆虫学・農業学科 助教授
- 2：京都大学 大学院農学研究科農学専攻耕地生態科学講座雑草学研究室 教授 富永 達
- 3：カラスムギのアセト乳酸合成酵素阻害剤抵抗性集団の拮抗性機種



アニッサ・アウニ (チュニジア)

Dr. Anissa AOUNI (Tunisia)

- 1：ボルジュセドリア・ハイテク産業都市 水研究テクノロジーセンター 排水処理研究所 准教授
- 2：信州大学 繊維学部化学・材料系材料化学工学課程 教授 木村 睦
- 3：ナノ炭素材料を用いた高耐久性水処理膜の開発



ダンカ・ブクヴィチキ (セルビア)

Dr. Danka BUKVICKI (Serbia)

- 1：ベオグラード大学 生物学部植物形態学系統学部門 研究員
- 2：徳島文理大学 薬学部薬化学研究室 教授 浅川義範
- 3：地中海および邦産苔類およびシソ科植物の植物化学的・薬学的研究



オタベキ・ブルクホノフ (ウズベキスタン)

Dr. Otabek BURKHONOV (Uzbekistan)

- 1：ウズベキスタン科学アカデミー ウルグ・ベク天文学研究所 上席研究員
- 2：自然科学研究機構 国立天文台 天文シミュレーションプロジェクト 助教 伊藤孝士
- 3：天文学に於ける画像処理：測光と解析

研究奨励金給付制度について

招聘期間： 3カ月から6カ月間

応募締め切り： 招聘する年度の前年8月31日

◎応募者の資格

外国国籍を有しかつ次の事項に該当する者は、必要書類を添えて応募することができる。

1. 博士課程を修了した者、またはそれに準ずると本財団がみなした者。
2. 応募時の年齢が49歳以下であること。
3. 英語または日本語の会話能力が、研究活動に支障をきたさない者。
4. 来日経験のない者。
5. 応募者は、応募者自身の国において確固たる地位・職業を持ち、招聘後は本国に戻る者。
6. 心身ともに健康な者。

◎研究分野

自然科学・工学・医学の研究分野は優先度が高い。

◎研究奨励金の内容

研究滞在費…研究機関への指導料および研究に係わる経費・宿泊費・食費・交通費等の諸経費として支給。

旅行者保険…傷害死亡、後遺症、傷害治療、疾病死亡、疾病治療。
旅 費…招聘者の母国居住地から東京間の最短経路のエコノミークラス・往復航空券を支給。

来日一時金…来日時の国内旅費補助、滞在開始時の宿泊施設確保に必要な経費の補助、等として支給。

※詳しくは「募集要項」をご覧ください。



奨学者国内研修旅行



本財団では、招聘する外国人研究者の日本滞在が各自の研究活動のみを目的にした滞在にとどめず、日本の歴史、文化、自然、産業についても深く理解していただくことも目的とし、国内研修旅行を毎年企画し、ご招待いたしております。2015年10月末に実施された国内研修旅行には、8カ国から9名の研究者が参加されました。



◀奈良・唐招提寺にて



広島平和記念公園・原爆の子の像の前にて、
折り鶴を捧げる



◀広島・厳島神社（宮島）にて

国内研修旅行に参加して

編集・翻訳責任：松前国際友好財団

ダヴラン・オタジャンフ博士
(ウズベキスタン)
Dr. Davran OTAJANOV (Uzbekistan)

- ①トリノ工科大学タシケント校 地震工学研究センター 所長
- ②大阪大学 大学院理学研究科宇宙地球科学専攻理論物質学グループ 教授 川村 光

国内研修旅行に参加したことで、日本の人々、文化遺産、その生活、社会などを学ぶことができました。また、私にとって、広島のマツダの自動車工場や呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）などは、日本文化の大変刺激的な側面でありました。

また、広島平和記念資料館を訪問した際、

国内研修旅行に参加して



赤膚焼絵付け体験（奈良）

第二次世界大戦の悲劇、原爆による多くの命が失われた展示を見て感じたことが、正直のところ大変つらかったです。

松前国際友好財団を支えてくださる皆様には、感謝とお礼を申し上げます。松前国際友好財団の活動は世界の多くの国々に果実をもたらしております。その崇高な使命を植え付け、その効果が価値あるものとなりました。研究は人々のため、安定的で、継続し、平和で、結果を生み、暴力をなくし、心を清らかにし、すべての人々に幸福をもたらすのです。そのゴールを達成するためにさらなる支持をお願いいたします。

アニッサ・アウニ博士 (チュニジア)
Dr. Anissa AOUNI (Tunisia)

- ①ボルジュセドリア・ハイテク産業都市 水研究テクノロジーセンター 排水処理研究所 准教授
- ②信州大学 繊維学部化学・材料系材料化学工学課程 教授 木村 睦

この国内研修旅行、とても嬉しかったです。訪問した場所すべてが素晴らしく、また参加者のメンバーもとてもよかったです。日本に来る前から長く訪問したいと思っていた日本の3都市、京都、広島、奈良を訪問できて私の夢が叶ったのです。日本文化や歴史を探訪

する、このような素晴らしい機会を与えてくださり、本当に感謝いたします。

この財団にご寄付をしてくださる皆様に、心からのおもてなしをしてくださったことに、あらためて御礼申し上げます。

セルロ・アルフレッド・リクク博士
(ボツワナ)
Dr. Sello Alfred LIKUKU (Botswana)

- ①ボツワナ農業大学 基礎科学科 准教授
- ②筑波大学 アイソトープ環境動態研究センター 准教授 坂口 綾

私のこれまでの生涯で、このような素晴らしい旅行に参加したことがありません。あらゆる点で、本当によく計画された旅行でした。この財団を支援してくださっている方々に申し上げたいのは、現在そして未来に向かって、この財団の創立者の考えに共鳴し、たゆまぬ協力をされていることに感謝を申し上げます。皆様の善意があるからこそ、2015年度に研究奨励金をいただいた研究者の中の一人として、今、私は日本にいるのです。どうもありがとうございました。

お抹茶体験（京都）



法人会費・寄付金を以下の皆様よりいただきました。 深く感謝申し上げます。

(期間：2015年4月1日～2016年2月29日、敬称略、順不同)

法人会費

[群馬県]
株式会社ナカヨ

[東京都]
株式会社ジェー・シー・シー
株式会社東海教育研究所
医療法人社団 松和会
港北出版印刷株式会社
横浜倉庫株式会社
秀和ビルメンテナンス株式会社
株式会社エフエム東京
大成建設株式会社

[神奈川県]
東海ウイング株式会社
山王総合株式会社

[静岡県]
ヤマダユニア株式会社
鈴与建設株式会社

[福岡県]
岩崎建設株式会社

寄付金

[北海道]
浅利 英吉
大場 禮二
池田 幸裕

[秋田県]
加賀谷 毅

[岩手県]
吉田 稔

[茨城県]
森 章一
田所 啓弘

[千葉県]
阿部 潔
松前 一義
大森 基靖

[東京都]
横堀 禎二
下島 たまも
加川 正彦
笠巻 孝嗣
吉野 賢三郎
橋本 敏明
金子 義明
渋谷 孝暢
西郷 勝行

大森 悦郎
大森 基義
田辺 佐敏
淵上 貫之
木村 奈加代
松崎 松平

[神奈川県]
遠山 文雄
岩井 薫生
吉田 茂
吉本 旬志
橋 裕司
原 広子
原 誠治
佐藤 美成
佐藤 和紀
山内 正彌
松前 光紀
松本 輝
杉下 道生
前田 正輝
中島 秀一
飯塚 進
片瀬 敏行
堀口 雅巳
木村 豊

野村 貴美
柳沢 真一
鈴野 君枝
和田 弘
脇 靖男

[静岡県]
岡田 喜裕
五十嵐 正晃

[京都府]
天野 洋

[大阪府]
野村 公寿

[岡山県]
北原 敦美

[島根県]
宮永 龍一
藤間 恵一

[長崎県]
林 邦昭

[熊本県]
北脇 秀樹

ご寄付に対する税制上の 優遇措置のご案内

公益財団法人松前国際友好財団に対して寄付金（法人会員の場合は会費）のご協力をいただくと、次の税制上の優遇措置が受けられます。

個人の場合（所得税）

個人が公益財団法人松前国際友好財団に支出した金額は、特定寄付金に該当し寄付金控除が受けられます。
(例) 寄付金額が5,000円の場合は、2,000円を控除して3,000円が寄付金控除額となります。

法人の場合

公益財団法人に対する損金算入限度額は通常の寄付金の損金算入限度額と同額以上が別枠として損金算入することが認められています。

※その他、詳しくは最寄りの税務署にお尋ねください。

本財団へのご寄付について

寄付金：個人・法人、金額に制限はありません。

法人会費：法人会員へのご加入につきましては、本財団までご連絡ください。

法人年会費 一口10万円から

振込方法：ゆうちょ銀行でお振り込みください。

口座番号：00100-4-49831

加入者名：公益財団法人 松前国際友好財団

本財団が用意いたしました「払込取扱票」をご利用いただいた場合、振込手数料は本財団が負担いたします。この「払込取扱票」については、本財団までご請求ください。

お問い合わせは：

公益財団法人 松前国際友好財団
〒167-0043 東京都杉並区上荻4-14-46

TEL：03-3301-7600 FAX：03-3301-7601

URL：http://www.mif-japan.org

E-mail：contact@mif-japan.org